

博物館だより

第9号



優しいおもざし

山千寺銅造観音菩薩立像

長野県内に残る最も古い仏像として有名なこの像は、日頃は山間の村でひっそりと過ごされていますが、この5年間は、当館開館記念日の9月23日から11月3日の文化の日まで、毎年常設展示室に展示されています。

何かを語りかけてもらえるような優しいおもざし、^{たいく}体軀を少し^{ひね}捻っているお姿からは、あたたかさを感じます。

(昭和12年国指定重要文化財)
丸山茂ほか4名所有

開館6周年記念特別企画展

森の文化

11月23日まで

森の危機がいま日本中で叫ばれています。私たちの近くでも飯山の鍋倉山のブナ林の問題が連日マスコミをにぎわしています。

そこで、当館でも森と人との関わりをさまざまな視点から追究し、森についてじっくり考える場を設けました。

■森と人

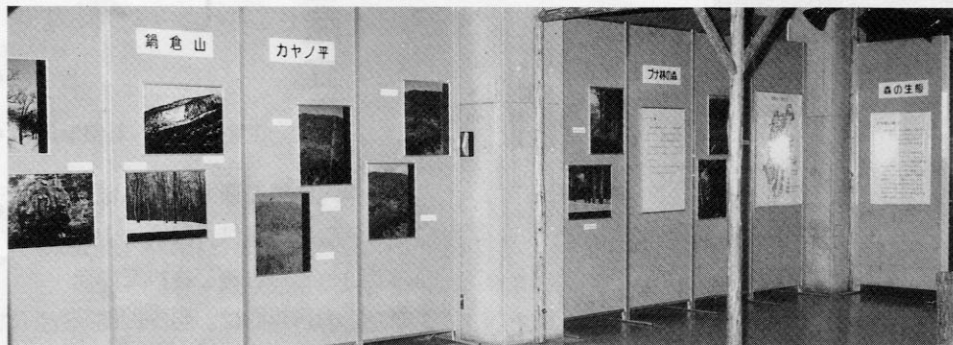
森は、私たちの身近な生活の面に限っても、家を建てる用材、生活用具に加工するための原木、煮炊きのための薪まきや粗朶そだ、炭、紙などの材料となり、保水や治水にも役立つ大切な資源です。しかし、

20世紀後半の経済優先の社会情勢で、森と人とのこれまでの関係は今断ち切れようとしています。それは山村社会の崩壊であり、過疎という現実にも連なって、これまで受けついできた森に育まれた文化が、いま消えうせようとしているのです。

■広葉樹林の文化

日本は国土の3分の2が森林でおおわれ、世界でも有数の森林国です。高温多湿の気候の中で育まれた日本文化は木の文化とも言われていますがこの場合の木とは、おもに建築材としての針葉樹を指しています。日本の三大美林(青森ヒバ・秋田スギ・木曽ヒノキ)と称されるものが、全て針葉樹であることから針葉樹への依存度がいかに高かったかが推察されます。

しかし、日本の四季を色どるのは落葉広葉樹です。広葉樹の森には木の実が豊富に実り、また人間にとっても、飢饉の時の救荒食などとして大切な食糧源でした。広葉樹の森は多くの生き物たちの生命を支えてきました。かつその風土に適応した生態系は森の偉大な生命力を守り多くの生命を育てているのです。山の民は広葉樹の森との関わりの中で、高度な生活技術をつくりあげてきました。



《森の生態》

ブナ林の森と動植物たちをパネルで展示。

《森の文化史》

森と人との関わりを歴史的な観点から展示。

(豊かな森とドングリ・飯縄山論争・木曽の伐木運材今昔・森林浴など)

《山の民と暮らし》

山の民が森との関わりの中でつくりあげてきた生活技術を民俗的な観点より展示。

(身じたく・手仕事・山の神など)



このような落葉広葉樹林の中で最も代表的な森林はブナ林です。西日本の照葉樹林帯に育まれた「照葉樹林文化」に対して、ブナ林帯に育まれた文化は、「ブナ帯文化」と呼ばれ、近年その重要さが見直されてきています。

森は物質文化だけでなく、精神世界の面でも、日本人独特の世界観を醸成し、ヨーロッパ世界とは異なる精神文化を形づくるのに関わっています。

■緑の危機

近年、各地で広葉樹林を伐採して、経済効率の高い針葉樹林への転換がはかられています。安易な改変は森の文化の破壊へ拍車をかけることになります。しかし間伐など、人手の入らない針葉樹の人工林もいま荒廃に向かい、緑の木を植えること

で、緑の危機が叫ばれています。

このように広葉樹の自然林、針葉樹の人工林ともにいま危機が叫ばれるに至っています。過去を顧み未来を展望して人間生活に欠くことのできない森と人との広く長い共存共栄の道を真剣に考えなければ人類の未来はないのではないのでしょうか。

●木工技術の実演

◇10月10～11日

木曽五木を割る

木曽八沢春慶檜物細工

◇10月17～18日

桶づくり

◇10月24～25日

曲物づくり

◇11月1～3日

竹細工

◇11月7～8日

下駄づくり

●特別講演会

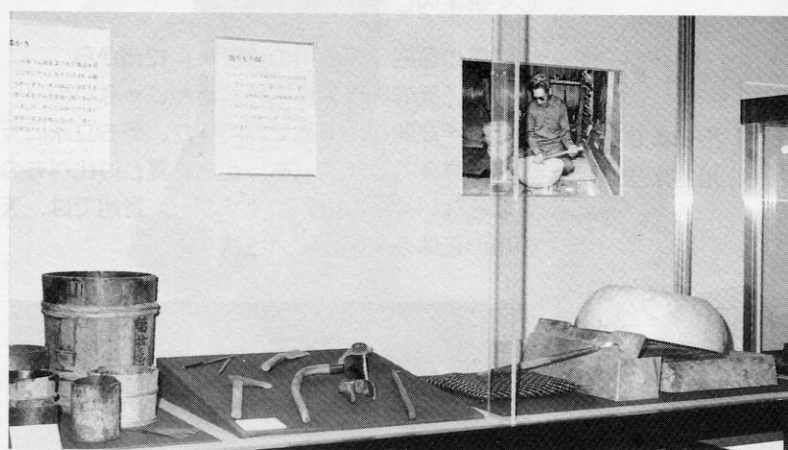
11月15日午後2時

博物館会議室・聴講無料

講師：只木良也氏

(信州大学教授)

演題：マツ林の盛衰記



《木の文化と
職人たち》
杣・漆かき・削り
もの師・木地屋



《森の樹々たち》
館内に自然林・二次林・河辺林を構成し、下草やキノコなども加えて森を再現。

川中島合戦話

よく聞く川中島合戦の話に、「謙信自ら8千の兵を率い侯可峠そらべくとうげを越えて妻女山に陣をした。」との一節があります。当時本街道だったこの峠は松代温泉団地の北にあり、道筋が今も残っています。

峠の東隣には雨飾山がそびえ頂上には武田方の城があり、尾根続きの寺尾城と共に峠一帯は完成

間もない海津城の防御前線でした。その中を謙信がたゞ通れたわけがありません。

それに、今度の謙信出陣は海津城攻略が目的でしたから、この稜線に進出できれば目標は眼下で、城内の様子は手にとるよう。ここに勝る攻撃拠点はないはず。それができぬから次善の策として妻女山着陣となったのでしょう。

(次号につづく)

博物館行事のご案内

◆教室・講座

10/25(日) 地質教室

11/14(土) 秋の天体教室

12/16(水)・20日(日) しめ縄教室

◆企画展 「茶臼山の地すべり」 10/25(日)まで

場所・博物館分館 茶臼山自然史館

◆プラネタリウムコンサート

10/24(土) 午後6時45分～8時

題目：“フォークからニューミュージックへ”

◆餅つき 12/27(日)

◆年末年始休み 12/28(月)～1/4(月)

◆プラネタリウム

(1)秋の番組《ゆみちゃんの星占い》11/29まで
クラスのアイドルゆみちゃんは星占いに夢中です。ある日、「あなたの運命を変える可能性がある男の子に会う」という星占いを読み、胸をときめかせながら夜空へ出かけていきました。そして、占いの通り1人の天文少年と出会いますが、彼は星占いなんて全然信じていません。秋の番組はそ

んな2人ののがくて甘いお話です。秋の星空を楽しく御案内します。

(2)冬の番組《天の川のコト》 12/5から

“え、天の川って夏に見えるんじゃないの?”という声が聞こえてきそうですが、冬も立派に天の川が見えています。もっとも、夏とは比べものにならないくらい淡いのですが…。番組では、天の川の正体を解明していきます。



星・空・散・歩 —きれいな星空だけど星がきれいに見えない?!—

「今晚はきれいな星空だね」と言ういかにもよく晴れた夜でも、意外に星がよく見えないことが多いものです。何だか変な話ですね。「星がきれいだ」という日は、空が澄んでいて透明度が良いといえます。しかし、そんな日は上空の大気が盛んに動いていて星が激しくチカチカとまたたいています。そんな日に望遠鏡をのぞくと、星はゆらゆら揺れて

いて、とても観測になりません。この大気のゆれ具合をシーイングといいます。シーイングは透明度と逆になる場合が多いようです。

博物館だより No.9 1987.10.12

編集・発行 長野市立博物館

〒381-22 長野市小島田町八幡原史跡公園内

☎ (0262) 84-9011